

4 高気圧は外域のみから成る。その分布型は3 (b)に同じ。

5 不連続線には3 (a)の型が、トラフ・リッジには3 (b)の型が応用できる(軸の垂直方向)。

6 トルネード・たつ巻は内域のみから成る(α は1)。即ち気圧分布は、

$$p = p_{\infty} - \Delta P_0 \cdot y; \quad y = \frac{1}{1+z^n}, \quad z = \frac{r}{r_1}$$

この旋衡風の極大は $5\sqrt{n} \sqrt{\frac{\Delta P_0(\text{mb})}{\rho(\text{kg} \cdot \text{m}^{-3})}} (\text{m/sec})$ 。

n の値は、台風の場合の最大値である8とするのが良からう。

以上の数値はまだ確定的なものでないので、今後精密な観測資料の集積をまって修正したい。

終りに、ハリケーンの観測資料をお送り頂いた Dr. G.C. Gentry (U.S.A. ハリケーン研究所長), ならびにいろいろとお世話になった渡辺和夫研究官(元)に深く感謝します。

文 献

Deppermann, C.E., 1947: Notes on the origine

and structure of Philippine typhoons, Bull. Amer. Met. Soc., 28, 339.
 Fujita, T.,¹⁾ 1952: Pressure distribution in typhoon, Geophys. Mag., 23, 437.
 ———²⁾ 1952: Pressure distribution in typhoon, Rep. Met. Lab. Kyushu Inst. of Techn., 2, No. 1-4.
 Magata, M., 1950: Dynamics of the eye of storm, Pap. Met. Geophys, 1, 29.
 Namekawa, T. and Aoki, S., 1936: A view of the structure of 'Muroto Typhoon', Mem. of the Coll. of Sci. Kyoto Imp. Univ., 19.
 Schloemer, R.W., 1954: Analysis and Synthesis of Hurricane Wind Patterns Over Lake Okeechobee, Florida, Hydromet, Rep. No. 31, U.S. Weather Bureau.
 Syono, S., 1951: On the structure of atmospheric vortices, J. Met., 8, 103.
 正野重方, 1944: 対称性高低気圧内の下層風に関する近似解とその応用, 気象集誌, 22, 365.
 高橋浩一郎, 1939: 台風域内に於ける気圧及び風速の分布, 気象集誌, 17, 417.
 ———, 1944: 移動しつつある気圧の場に伴う風に就いて, 気象集誌, 22, 19.
 ———, 1969: 綜観気象学, 岩波書店, 250.



大後 美保著

気候と文明

日本放送出版協会, 1976, A 5 版, 293頁, 1,200円

人類の歴史を支配する要素は多岐にわたっているが、そのもっとも大きいものの一つは、経済状態であることは明らかである。しかしさらに一步を進めて、その経済状態を左右するものはなにかというと食糧の増減であり、さらにこの食糧の増減を支配するものは気候の変動である。

したがって、人類の歴史は、気候の変動によって左右されているとみることができる。その実例をこの本は如実に展開してみせてくれる。衣・食・住はもとより人類の文明そのものが、気候の変動によって浮沈している実情が、豊富な実例を縦横に駆使して描かれている。日常

の生活に追われて、気候の変動などは、他所の国のできごとくらいにしか考えていなかったわれわれにも、気候という巨人のこわさが、肌に粟を生ずるほどにも、身近に迫って感じられてくる。そして、われわれの文明の将来が、果してどうなっていくのであるかについて、筆者はさまざまな観点から示唆を与えている。

しかもわれわれの今日の文明が、すでに気候の変動によって、崩壊するきざしがあることを、この本は実感として教えてくれる。この本はその意味で、警世の書であるといえるかも知れない。

「気候と文明」という題名は、有名なハンチントンのをそれを連想させるが、この本は今日の人類のもっとも重要な課題はなにかと問いかけている点で、別の範疇に属するものといえるだろう。

各章とも多少描き足りないと思われる所もあるが、限られた紙数で、これを望むのは、註文する方が無理というものであろう。

(安藤隆夫)